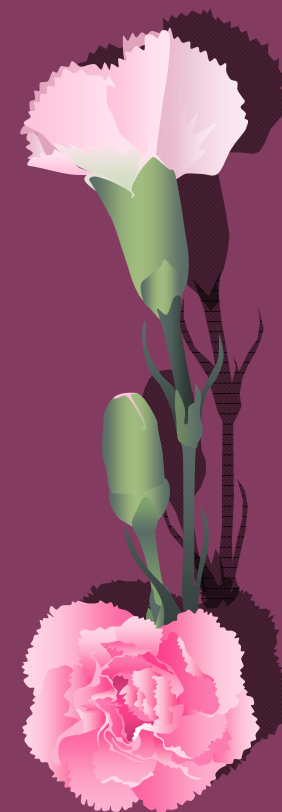




病気に見えない病気

竹内和義
日本臨床獣医学フォーラム
神奈川県開業



講演目的

🌸 対象

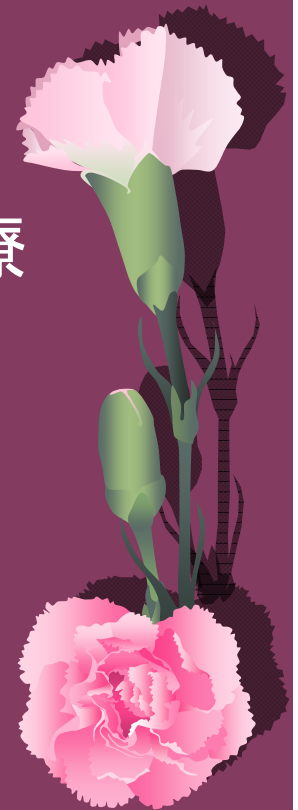
- 🍃 ペットの家族と動物看護師

🌸 講演内容

- 🍃 日常健康管理に必要な知識介
- 🍃 病気に見えない病気の早期発見・早期治療

🌸 健康診断の概要と必要性

- 🍃 人間ドックとワンニャンドックの違い



はじめに

- 🌸 動物は言葉を話せない
 - ➡ 微妙な体調の変化を訴えることが出来ない
- 🌸 獣医師は
 - ➡ 動物の微妙な変化を、言葉を介さずに適切に評価
 - ➡ 病気を正しくかつ早期に発見しなければならない
- 🌸 獣医師がどんなに努力しても
 - ➡ ペットの家族が動物病院に連れてきてくれないと診断することすら出来ない
- 🌸 本講座の目的
 - ➡ 多くの伴侶動物が健康で長生き出来るよう
 - ➡ ペットの家族や動物看護師が、病気と思わないような見逃しやすい病気
 - ➡ 早期発見するためのポイントなどを紹介



定期健診の重要性

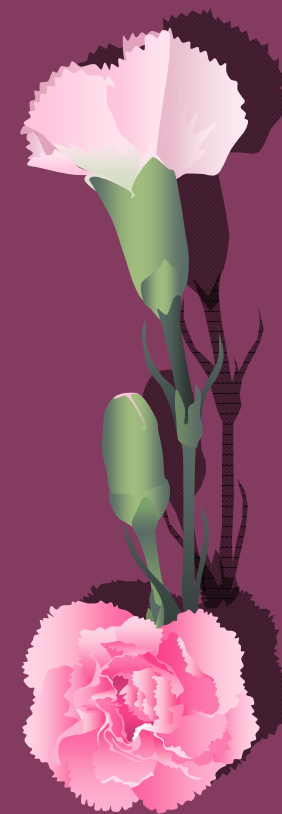
- 🌸 伴侶動物が健康で生きること
 - ➡ すべての飼い主や獣医師の願い
- 🌸 獣医師が一番苦勞すること
 - ➡ 飼い主が重病と認識していない
 - ➡ 「もう少し早く来院していれば治療が簡単だったのに！」
- 🌸 ペットが病気であることを理解してもらおう
 - ➡ 獣医師が 一生懸命説明
 - ➡ 非常に苦勞
- 🌸 病状が悪くなる前に動物病院に来院
 - ➡ 簡単にしかも
 - ➡ 費用もかからずに直すことが可能



定期健康診断

🌸 伴侶動物に一番大切な健康管理

- ➡ 定期的ワクチン接種より重要？
- ➡ 「人間ドック」とは少々意味が異なる
- ➡ 動物は微妙な体調の変化を訴えられない
- ➡ 飼い主が注意深く観察する
- ➡ 動物病院で丁寧な健康診断を受ける
- ➡ 見逃しやすい病気を的確に早期に発見



成人病の早期発見

🌸 人の健康診断

- ➡ 中年頃から必要性が高まる

🌸 伴侶動物の健康診断

- ➡ 若齢期（1歳未満から）から実施する必要あり

🌸 人と伴侶動物の年齢の比較

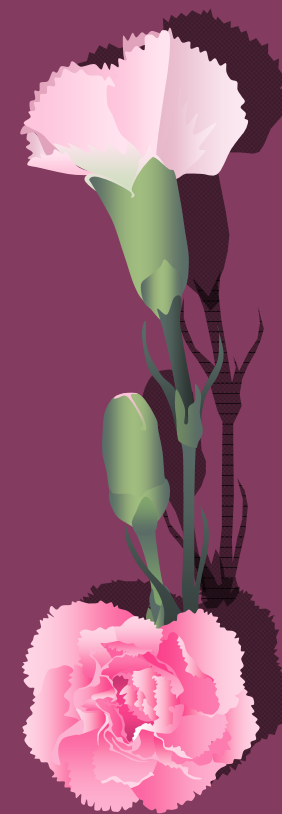
- ➡ 10歳を超えるとヒトの1年に比べて5歳から6歳年を取る

🌸 1年に1回の健康診断

- ➡ 5年に1回の定期検診

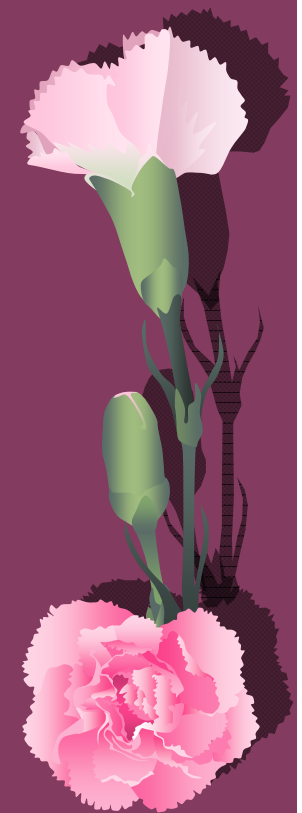
🌸 10歳を超えたら

- ➡ 6ヶ月に1度の定期健康診断が必要



犬と猫の人年齢比較表

犬と猫の人年齢比較表					
犬				猫	
犬の年齢	小型犬 人の年齢	中型犬 人の年齢	大型犬 人の年齢	猫の年齢	人の年齢
1	15	15	15	6ヶ月	10
2	24	24	24	1	15
3	28	28	28	2	24
4	32	32	32	3	28
5	36	36	36	4	32
6	40	42	45	5	36
7	44	47	50	6	40
8	48	51	55	7	44
9	52	56	61	8	48
10	56	60	66	9	52
11	59	65	72	10	56
12	64	69	77	11	60
13	68	74	82	12	64
14	72	78	88	13	68
15	76	83	93	14	72
16	80	87	120	15	76
17	84	92		16	82
18	88	96		17	84
19	92	101		18	88
20	101	110		19	92
				21	100



定期健康診断を受ける時の注意点

❁ 動物病院の「定期健康診断システム」

- ➡ 日常業務として実施・導入している動物病院
- ➡ まだあまり多くない

❁ 正式な定期検診

- ➡ 8時間以上絶食した後に各種検査

❁ 食べ物による検査への影響

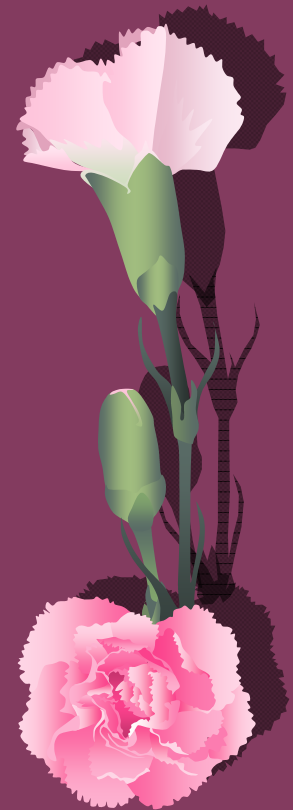
- ➡ 中性脂肪やコレステロール
- ➡ 高蛋白食の摂取後
 - ❖ BUN・NH₃などで誤りの高値を示



血液検査のみの簡易健康診断？

🌸 フィラリア症の血液検査やワクチン接種時に

- 🍷 同時に健康診断をかねて血液検査
- 🍷 「定期健診」の代わりにする
- 🍷 無駄ではないが適切な健康診断？



「定期健診・定期健康診断」

❁ 完全な身体検査

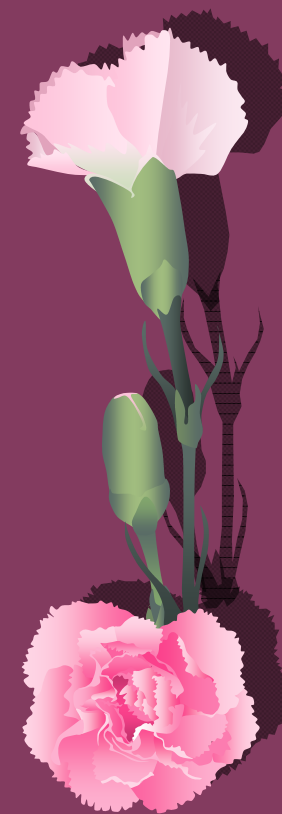
- ➡ 聴診・触診・目・口・関節・皮膚・被毛などを詳しくチェックする

❁ レントゲン検査（胸部・腹部）

❁ 血液検査、心電図検査、超音波検査

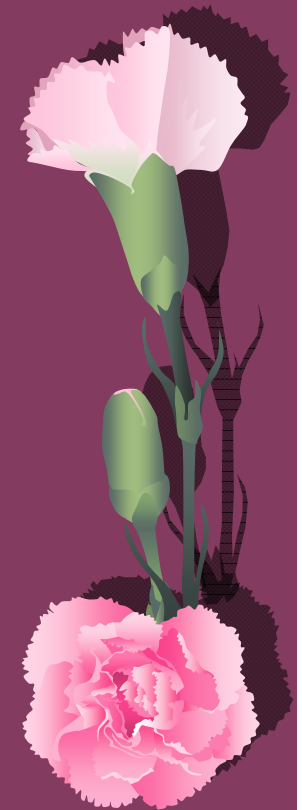
❁ 血液検査だけが健康診断ではない

- ➡ 血液検査のみでは病気の早期発見出来ない
- ➡ 十分時間をかけて丁寧に実施すべき
- ➡ 正式な健康診断を受けましょう！

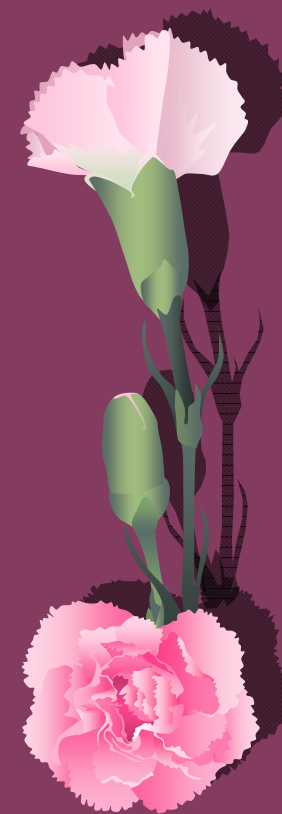


身体検査

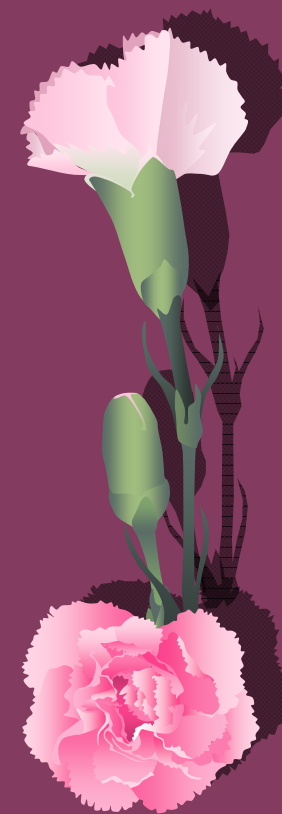
体温・呼吸数・体重の測定



採血



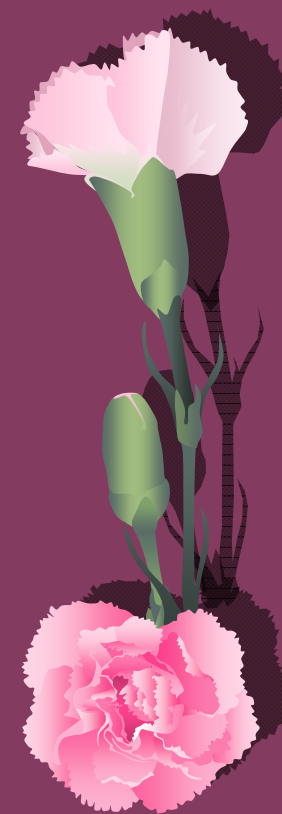
耳の中・奥の耳鏡検査



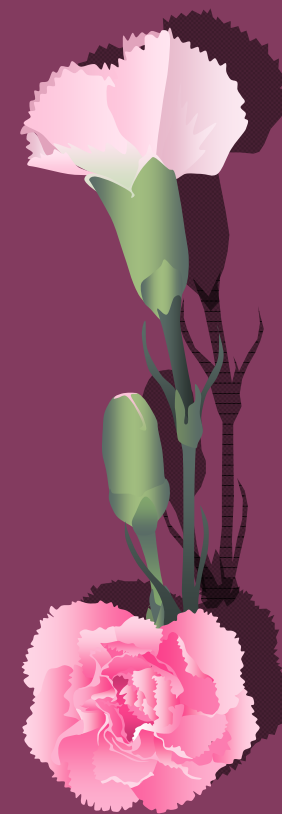
導尿(尿の採取)



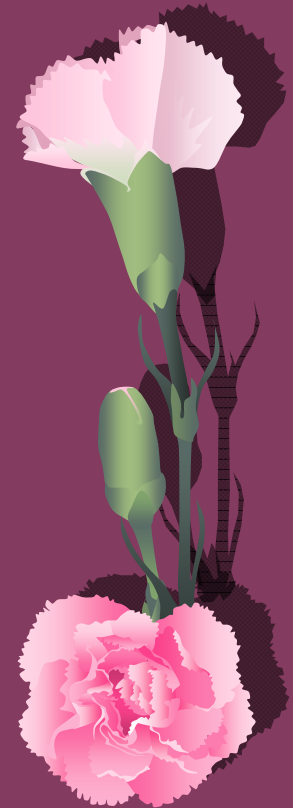
心電図検査



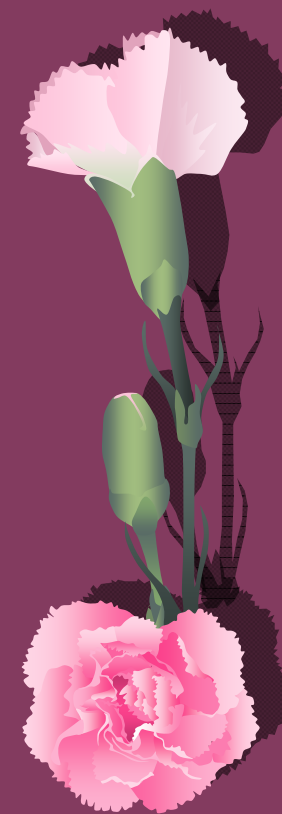
レントゲン検査



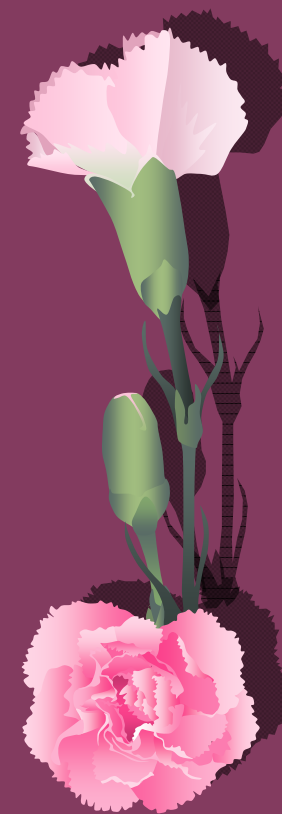
顕微鏡で尿・糞便検査・血液学検査



尿試験紙による検査



最後に獣医師から検査結果報告



病気に見えない病気

- ❁ **代表が内分泌疾患**
- ❁ 病気になると元気や食欲がなくなる
- ❁ 内分泌疾患は元気や食欲が亢進することが多い
 - ➡ 甲状腺機能亢進症
 - ➡ 糖尿病
 - ➡ 副腎皮質機能亢進症
- ❁ **猫の甲状腺機能亢進症**
 - ➡ 活動性が活発
 - ➡ 飼い主が病気と思わない典型例
- ❁ 病気になると痩せてくる？
 - ➡ 甲状腺機能低下症
 - ➡ 副腎皮質機能亢進症は肥満傾向



7歳齡、去勢雄、ロシアンブルー

🌸 毎年3種混合、白血病ワクチン接種

🌸 **主訴**: ワクチン摂取

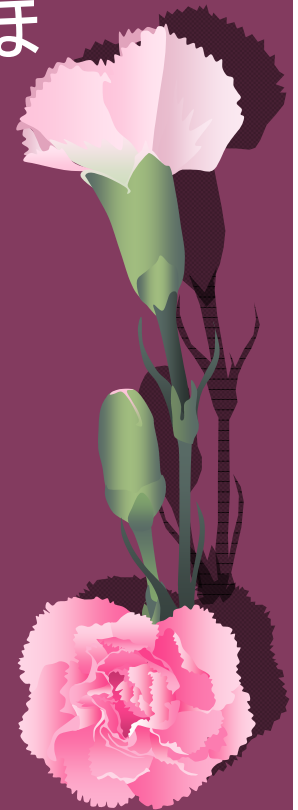
➡ 最近食欲がやや不振、**ついでに診察**してほしい

🌸 身体検査: 特別な異常は一見無し

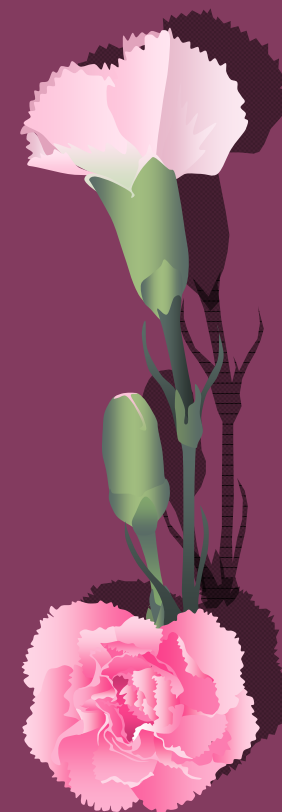
🌸 しかし、念のため

➡ **「わんにゃんどック」**詳細な検査

➡ その結果でワクチンを摂取するか判断



どこから見ても一見健康？



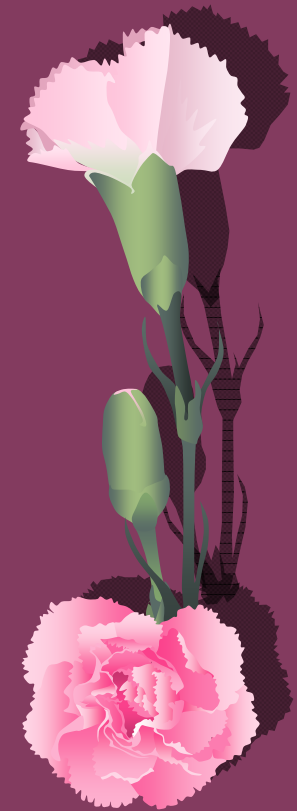
Test	Results	Reference Range	Indicator		
			LOW	NORMAL	HIGH
ALB	= 2.64 g/dl	2.60 - 3.90			
ALKP	= 30 U/L	14 - 111			
ALT	= 39 U/L	12 - 130			
AMYL	= 700 U/L	500 - 1500			
AST	= 48 U/L	0 - 48			
BUN	= 30.2 mg/dl	16.0 - 36.0			
Ca	= 9.12 mg/dl	7.80 - 11.30			
CHOL	= 130.9 mg/dl	65.0 - 225.0			
CREA	= 1.93 mg/dl	0.80 - 2.40			
GGT	= 0 U/L	0 - 1			
GLU	= 139.4 mg/dl	76.0 - 145.0			
LIPA	= 313 U/L	100 - 1400			
NH3	= 43 umol/l	0 - 95			
PHOS	= 3.04 mg/dl	3.10 - 7.50			
TBIL	< 0.10 mg/dl	0.00 - 0.90			
TP	= 6.33 g/dl	5.70 - 8.90			
TRIG	= 107.9 mg/dl	10.0 - 100.0			
GLOB	= 3.69 g/dl	2.80 - 5.10			
Na	= 153.4 mmol/l	150.0 - 165.0			
K	= 3.81 mmol/l	3.50 - 5.80			
Cl	= 124.5 mmol/l	112.0 - 129.0			
T4	= 3.2 ug/dl				

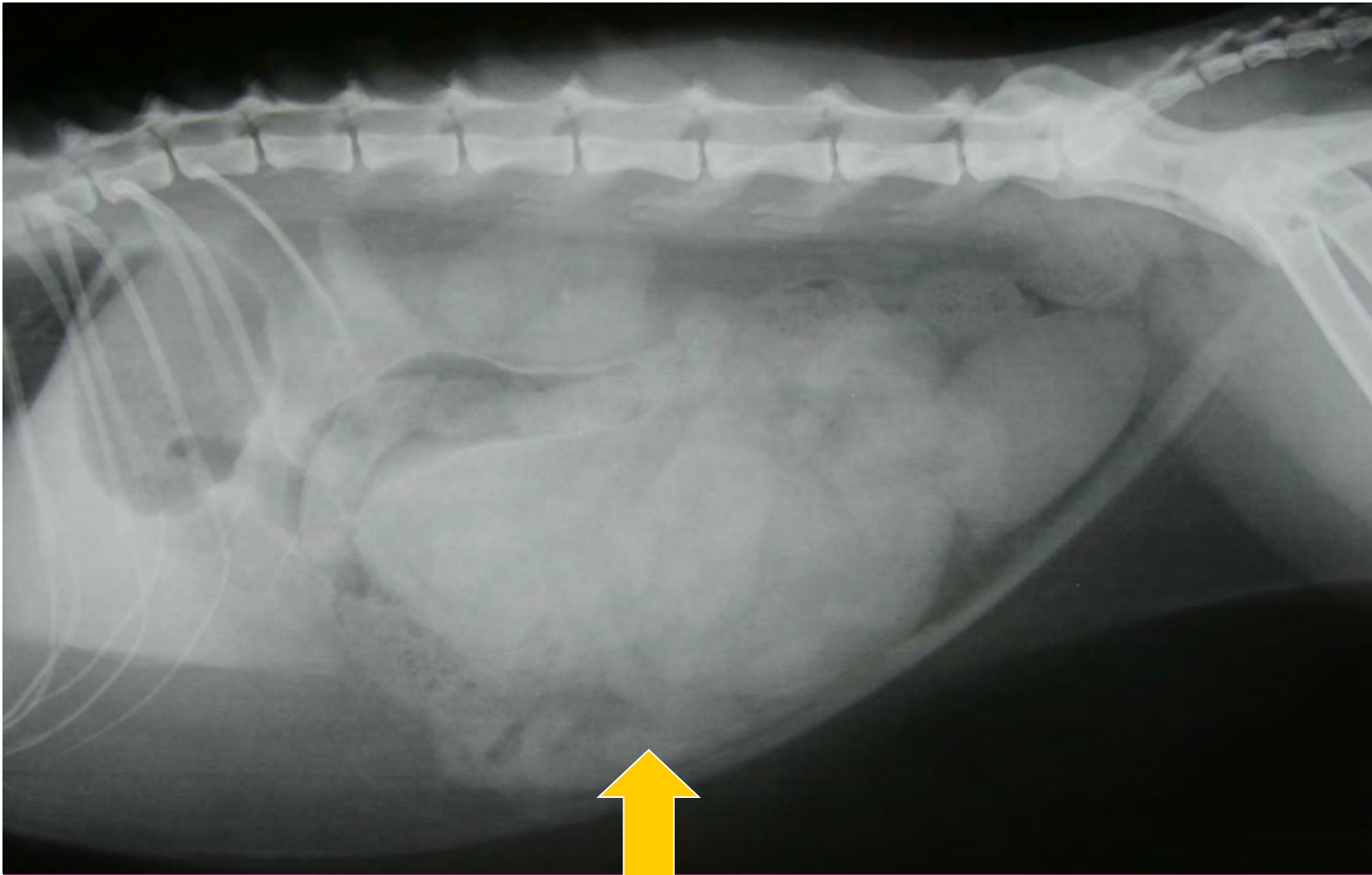
- See Snap kit insert for interpretation.

Test	Results	Reference Range	Indicator		
			LOW	NORMAL	HIGH
HCT	= 34.7 %	24.0 - 45.0			
HGB	= 10.7 g/dl	8.0 - 15.0			
MCHC	= 30.8 g/dl	30.0 - 36.9			
WBC	= 16.7 x10 ⁹ /L	5.0 - 18.9			
GRANS	= 15.0 x10 ⁹ /L	2.5 - 12.5			
%GRANS	= 90 %				
L/M	= 1.7 x10 ⁹ /L	1.5 - 7.8			
%L/M	= 10 %				
PLT	= 385 x10 ⁹ /L	175 - 500			
Retics	= 2.0 %				

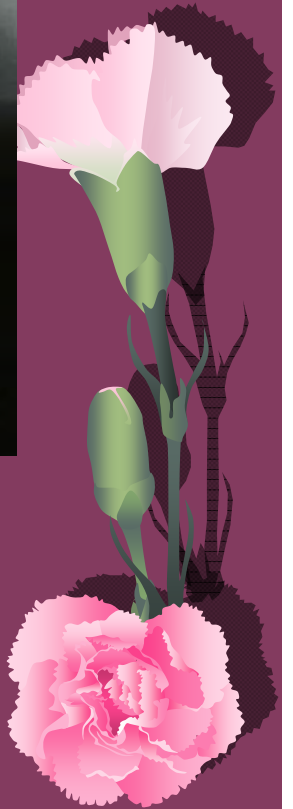
=WBC=
 Band - N 0 Mono 250
 Seg - N 15280 ⊕ EOS 751
 Lymph 417 ⊕ Baso 0

=RBC=
 1/LX-1 小細胞出現
 * 幼若赤血球出現
 若干 網球狀赤血球(?)
 =PLT=
 十分別)

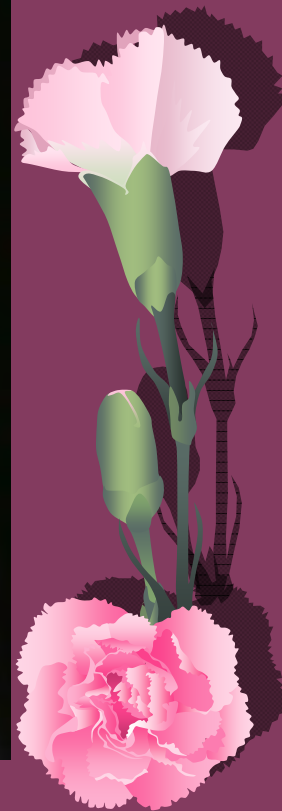
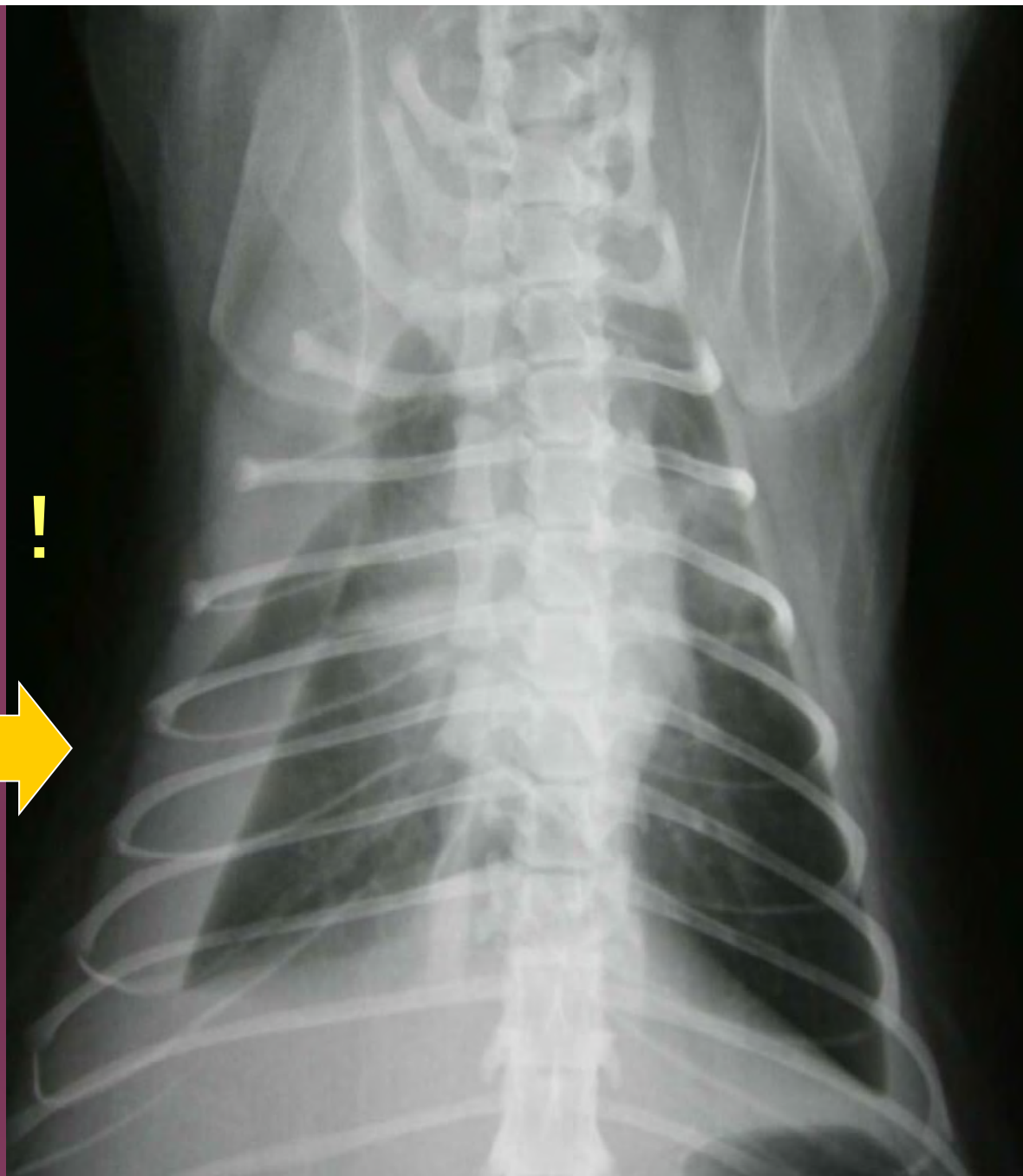
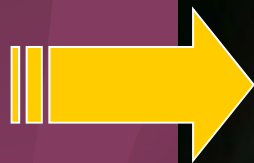




腹部に大きな塊！



胸水貯留！



内分泌疾患の特徴

- ❁ 早期発見と適切な治療
 - ➡ 健康な動物と変わらない寿命

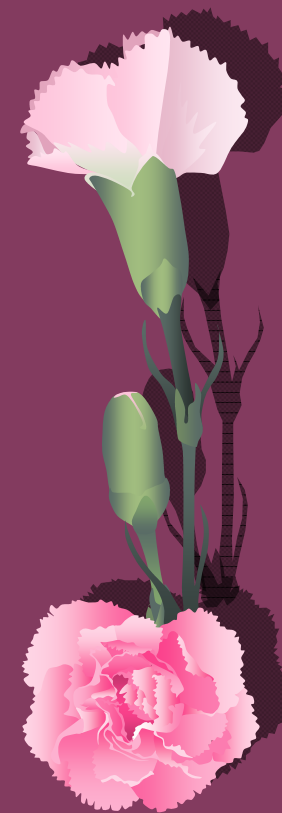


食欲が亢進する内分泌の病気

🌸 糖尿病

🌸 副腎皮質機能亢進症

🌸 甲状腺機能亢進症



肥満傾向を示す内分泌の病気

- ❁ 甲状腺機能低下症
- ❁ 糖尿病（初期）
- ❁ 副腎皮質機能亢進症（お腹が大きく）

活動性が活発になる内分泌の病気



甲状腺機能亢進症



内分泌疾患以外で病気に見えない病気 フィラリア症

- ❁ 昔のワンちゃんはほとんどこれで死亡
 - ➡ 蚊が媒介する犬の最も恐ろしい病気の一つ
 - ➡ 心臓に15～30cmのソーメン状の虫が寄生
 - ➡ 感染しても最初の2-3年間症状を示さない

❁ 症状

- ➡ 咳・削瘦・腹水・
- ➡ 症状が出てからでは完治は望めない
- ❁ 寿命を1/3以下にする
- ❁ 予防薬の投与で完全に予防できる



心臓疾患



人

- 「動悸・息切れ」、胸が苦しくなる
- 自覚症状がある



動物

- 微妙な自覚症状を訴えない



高齢犬はほとんど心臓病



「僧帽弁閉鎖不全症」

- 左心室と右心室の間の心臓弁がうまく閉じない
- ほとんどの犬は10歳近くになるとこの弁が老化
- 血流を全身にうまく遅れなくなる



心臓病の早期治療

🌸 ACE阻害剤

- ➡ 軽症のうちから血圧をコントロール
- ➡ 進行を非常にゆっくりさせる
- ➡ 寿命が3年も4年も延びる

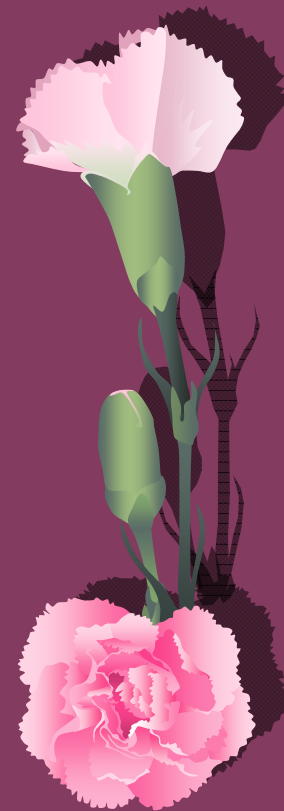
🌸 症状のポイント

- ➡ 散歩を喜んで行かなくなったり
- ➡ 走り回らなくなる
- ➡ 「咳」が出ると「風邪」と思う人が多い
- ➡ 心臓性の咳がワンちゃんが多い
- ➡ 「ノドに何かが引っかかって吐き出すような仕草」が犬の咳の特徴



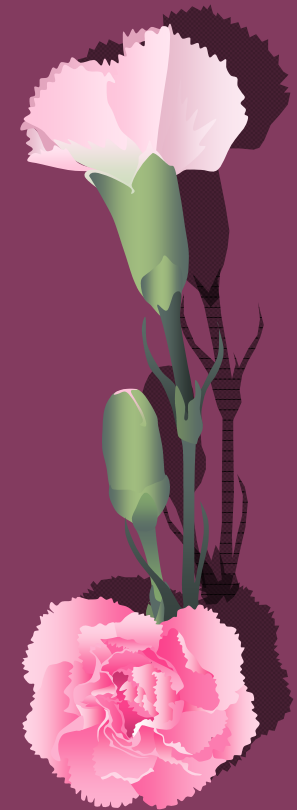
心臓疾患

🌸 定期健康診断で最も良く診断される疾患



超音波検査

🌸レントゲンでは確認しにくい心臓の形態の異常、腫瘍の発見・確認に威力を発揮



心臓機能検査

🌸 レントゲン検査

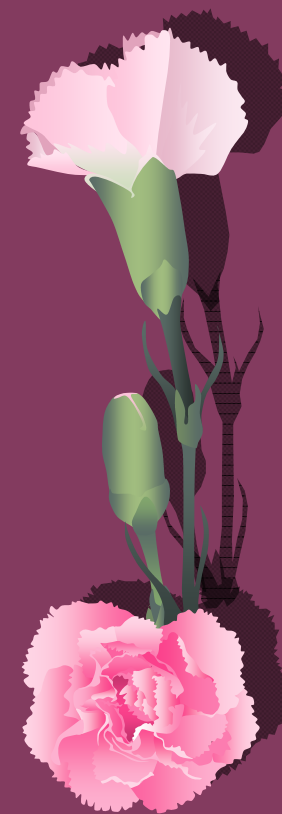
- 🍃 心臓肥大の有無

🌸 心電図検査

- 🍃 不整脈の有無

🌸 超音波検査

- 🍃 心臓疾患の最も効果的な診断方法
- 🍃 心臓の弁状態・心臓の壁の厚さ
- 🍃 心臓全体の血流の状況



猫ちゃんが多い心臓病

❁ 「心筋症」

❁ 心臓の壁が薄くなって心臓全体が大きくなる

❁ 「拡張型心筋症」

❁ 心臓全体は大きくなりませんが、心臓の壁自体が厚くなって心臓の腔が狭くなる

❁ 「肥大型心筋症」

❁ 超音波検査で非常に的確に診断




耳の病気

- ❁ 日常臨床で一番多い病気が耳の病気
 - ➡ 病気とっていないことが多い
- ❁ 飼い主が耳の病気に気が付かない一番の原因
 - ➡ 犬や猫が後ろ足で耳のあたりを掻く
 - ➡ 頭を振る
 - ➡ 自然な仕草と誤解
 - ➡ かなり激しく耳を気にする
 - ➡ 耳がクサイ！！
 - ❖ 初めて病院に連れてこられることが多い病気
- ❁ 耳の内側や耳道の周囲の黒っぽい汚れや黄色い膿などを点検






腎臓病




「無言の病気」

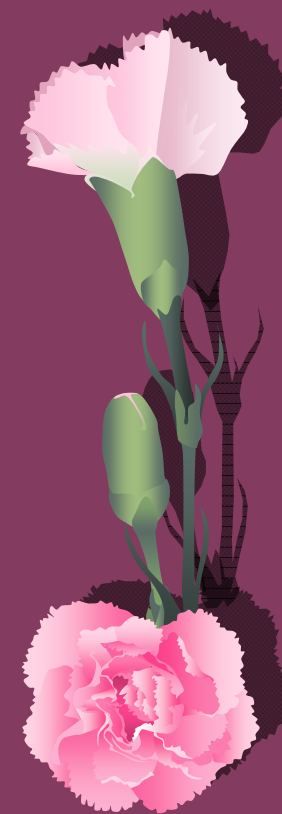
-  静かに進行し気が付いた時には完治が難しい病気の代表例

診断

-  「何となく最近痩せてきた」
-  「時々吐く」
-  初期症状は気づきにくい

尿検査

-  膀胱炎の存在
-  尿蛋白の有無
-  尿比重の評価



ACE阻害剤

- ❁ 初期から投与すると延命効果
- ❁ 重度の胃腸病を放置
 - ➡ 脱水症状
 - ➡ 消化器の悪玉細菌の増殖
 - ➡ 急性腎不全
 - ➡ 腎臓機能が回復できなくなる
- ❁ 適度な蛋白制限食も効果的



歯の病気

- ❁ 日本人は欧米人に比べて無関心
 - ➡ 「キス」の習慣？
 - ➡ 日常の歯磨きの習慣
- ❁ 定期的な歯のクリーニング処置
 - ➡ 歯が異常に臭く
 - ➡ 歯垢や歯石がたくさん付いて
 - ➡ 歯肉炎を起こしている



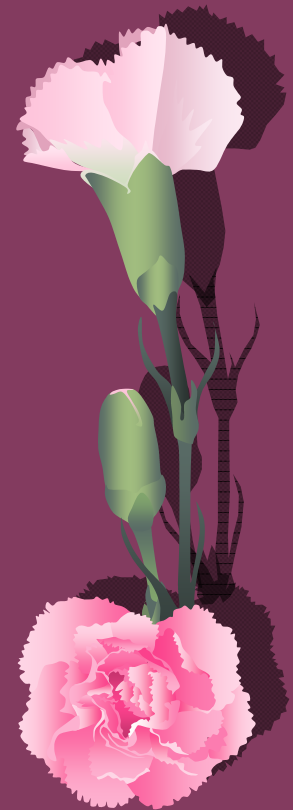
口臭がひどい

- ❁ 病気と思わな家族
- ❁ 獣医師の指導が悪い
- ❁ 歯がきれいに維持できている伴侶動物
 - ➡ 平均で2歳寿命が長い
 - ➡ 2歳はヒトでは10年から12年
- ❁ 歯周病は立派な病気
 - ➡ 放置すると腎臓や肝臓など内臓に障害



体重の変化（肥満・痩せ）

- ❁ 日常健康管理で一番簡単で重要な指標
- ❁ 成（犬・猫）病の原因
- ❁ 体重が減少傾向
 - ➡ 何らかの慢性疾患が潜伏している可能性
- ❁ 動物病院に定期的に連れて行けば毎回体重測定が行える
 - ➡ 気軽にホームドクターに体重測定をお願いしてください



肛門腺（臭囊）

- ❁ 肛門の両側に二つある小さな分泌腺
- ❁ 「スカンク」が臭いを出す器官と同じ
- ❁ 自分固有の臭いをウンチや縄張りに付けたり
- ❁ 興奮すると分泌します
- ❁ 人間社会で生活するようになり
- ❁ 興奮する必要が無くなり
- ❁ 縄張り意識が薄れる



肛門腺炎

🌸 お尻でズルズル床を引きずり変な格好で歩いている

➡ 肛門腺炎または臭囊炎の前兆

🌸 肛門腺が貯まりすぎて炎症

➡ 分泌液がドロドロになる

➡ 早急に貯まった分泌液を絞り出してあげる必要

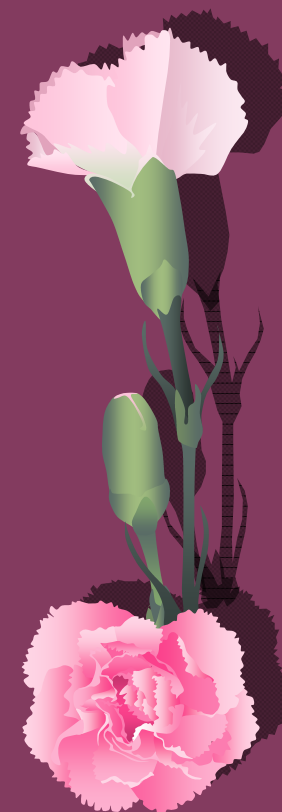
➡ 放置すると、化膿して大変なことになります

🌸 プロの行うペット美容

➡ 肛門腺を絞る



ペットの美容院に定期的に通っていない動物



まとめ

❁ 病気に見えない病気

➡ ペットの飼い主が病気と認識しにくい病気の総称

➡ 静かに進行するような病気

❖ 内分泌疾患

❖ 腎疾患など

➡ 病気と認識しにくい症状の病気

❖ 耳・歯・肛門腺など



キーポイント

日常健康管理

 定期的な健康診断

 内分泌疾患

❖ 初期の段階では病気と認識されにくい

 耳や肛門腺の病気

❖ 病気と認識されない場合が多い

❖ 症状のポイントを知れば意外に気づきやすい

